新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。
☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせます。
☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとります。
☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてます。

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです。あなたも一緒に

今週の紙面

■2面　女性ニュース　■3面　読者のページ／まんが／パズル　■4・5面　教育費の無償化と子どもの学び育つ権利／ホットライン　■6面　お月見だんご／文化情報　■7面　新婦人の活動／主張／母の歴史

東京・江戸川区　舎川明美

「教育のつどい―教育研究全国集会2025in埼玉」の講演より

難民の声、家族の歴史から考えた「共に生きるとは何か」

フォトジャーナリスト　安田菜津紀さん

東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害の取材をすすめるフォトジャーナリストの安田菜津紀さん。世界では終わりの見通せない戦争が続き、異なる人種や国籍、文化を持つ人たちを排斥する排外主義とどう向き合うかが、日本も含めて重要な課題となっています。「みんなで21世紀の未来をひらく　教育のつどい―教育研究全国集会2025」（８月17日、埼玉）での講演より概要を紹介します。

私たちはすでに共に生きている

私は、世界で何がおこっているのか、こんな問題を抱えながら生きているんだよということを写真で伝えていく仕事をしています。

先日の参議院選挙で「日本人ファースト」というスローガンが踊りましたが、命にファーストもセカンドもあるのかと、私自身、取材を通して言いたいところです。

私たちはすでに、さまざまなルーツ、バックグラウンドを持つ人たちと共に生きています。そのことが本当に尊重される社会になるのだろうか。どんな未来を次世代に手渡していきたいのかをみなさんと一緒に考えていきたいと思います。

具志堅隆松さん（左）は、約束どおり木村紀夫さん（右）の元を訪れた（福島県大熊町で、2022年1月）

二人の出会いに立ち合って

戦後80年、戦争と命を考えるうえで大切にしてきた取材があります。

一人は、福島県大熊町の木村紀夫さんです。木村さんは東日本大震災（2011年3月）の津波によって、父、妻、次女が行方不明になり、次女の汐凪（ゆうな）さん（当時7歳）の遺骨だけはどうしても見つかりませんでした。東京電力福島第一原発の立地自治体、大熊町は全町避難になり、捜索が思うように叶いませんでした。ようやく重機を入れての捜索が始まったのは、2016年です。ほどなくして汐凪さんの遺骨の一部が見つかりました。

木村さんが自分を責める必要はまったくないのですが、「汐凪を置き去りにしてしまったのかもしれない」という自責の念がとめどもなくあふれてくるのだそうです。

そんな木村さんが、沖縄県戦没者の遺骨収集を長年続けてこられた具志堅隆松（ぐしけんたかまつ）さんのもとを訪れました。木村さんが具志堅さんに、「残りの遺骨を探したい。遺骨の一部が見つかった場所を、原発事故の教訓として残したい。娘一人のためにそんな思いを抱くのは私のわがままなのでしょうか」と、自身の葛藤を吐露しました。具志堅さんは木村さんの顔をまっすぐ見据えて、「これは人間の尊厳の問題で、人数の問題ではない。あなたには声をあげる権利がある。一人を大事にできない社会がみんなを大事にできるわけがない」と答え、東北の被災地へ遺骨の捜索に行きたいと約束。福島と沖縄の交流が始まりました。

ガザの国連パレスチナ難民救済事業機関が運営する学校で。東日本大震災の津波を映像で見たというシャヘドさん（左、当時14歳）は、「多くの街が破壊され、どれほど苦しかったか」と涙を流しながら語った。この学校では2012年から毎年３月、東日本大震災の復興を願う凧揚（たこあ）げが続けられていた。今は爆撃で学校と日常生活が破壊され、シャヘドさんとは音信不通になっている（2018年２月／写真はいずれも安田菜津紀さん提供）

なぜ死ななければならなかったのか

具志堅さんが捜索するのは、旧日本軍が構築した壕（ごう）です。足元の土を少し掘るだけでも、まだ遺骨が見つかるんです。

今年5月、糸満市の束（つか）辺名（へな）グスク（城）近くの緑地帯で見つかったのは、全身のご遺骨です。骨の状態から15歳～20歳前後ではないかとの見立てですが、沖縄の人なのか他県から派兵された人なのかはわかりません。

「なぜこの人たちは死なければならなかったのか、その責任をあやふやにしてはいけない」と具志堅さんは言います。

ちょうどその時、自民党の西田参院議員の〝ひめゆりの塔、歴史書き換え発言〟がされました。そして、責任をあやふやにしたまま、本島南部の土砂が、辺野古（へのこ）の新基地建設の埋め立てに使われようとしています。そんな非人道的なことが本当に突き進められていくのだろうか。〈2面へ〉

『遺骨と祈り』安田菜津紀（産業編集センター　1600円＋税）

やすだなつき　認定NPO法人Dialogue for People（ダイアローグフォーピープル／D4P）副代表。フォトジャーナリスト。著書に『遺骨と祈り』（産業編集センター）『それはわたしが外国人だから？日本の入管で起こっていること』『国籍と遺書、兄への手紙　ルーツを探る旅に』（二冊ともヘウレーカ）など

9月27日号は休刊です

発行所　新日本婦人の会　New Japan Women's Association　〒112-0002 東京都文京区小石川5-10-20 電話03(3814)9141(代)　編集部 03(5805)2370/Fax 03(5805)2372 振替00150-7-74582　https://www.shinfujin.gr.jp　1部105円　月410円（いずれも税込み、送料別）、会員は会費に含む
©新日本婦人の会2025年
入会はこちら